

令和５年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算 審査意見書

第１ 審 査 の 概 要

１ 審査の対象

令和５年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算

２ 審査の期間

令和６年６月５日から２６日まで

３ 審査の方法

令和５年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算の審査にあたっては、管理者から提出された決算書について、決算報告書、財務諸表、決算附属書類並びに事業報告書を基に審査を実施した。関係会計諸帳票及び預金残高証明書等の証拠書類と内容の照合点検を行い、財政状態及び経営状況の実態を把握した上で各種資料により、過去数年の経営状況等の推移、他病院や全国平均との比較、並びに経営分析指標に基づく検討や分析、実査を行い、事業の効率執行などを主眼に決算審査を実施した。

４ 審査の結果

決算書及び決算附属書類等は、法令に準拠して作成され、当監査委員は意見表明の基礎となる適切な監査証拠を入手したと判断した。計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

第２ 総 説

１ 事業量

病床数は、４２２床（一般３８０床〔八鹿３３８床、村岡４２床〕、療養３５床〔八鹿３５床〕、結核７床〔八鹿７床〕）である。

令和5年度の年間入院患者総数は、99,122人（前年度103,258人）で対前年4,136人（4.0%）減少した。内訳は八鹿病院が3,910人の減、村岡病院が226人の減となっている。患者総数での病床利用率は64.2%（前年度67.0%）に低下し、八鹿病院で66.4%（前年度69.4%）、村岡病院で44.3%（前年度45.9%）に低下している。新型コロナウイルス感染症の院内クラスター発生に伴う入院制限の実施や、看護職員等の不足により一部の病床が非稼働であることなどが入院患者数の減少に繋がっている。

年間外来患者総数は、126,789人（前年度129,839人）で対前年3,050人（2.3%）減少し、内訳は八鹿病院で3,873人の減、村岡病院で823人の増となっている。八鹿病院の外来患者数減少の要因としては、発熱外来患者の減少などがあげられる。

2 経営状況

（1）八鹿病院・村岡病院

令和5年度の病院事業収益は7,459,882千円（前年度8,134,121千円）で、対前年674,239千円（8.3%）減少した。病院事業費用は8,190,494千円（前年度8,102,663千円）で、対前年87,831千円（1.1%）増加した。病院事業収支は純損失が730,612千円となり、31,458千円の純利益を計上した前年度から762,070千円悪化し、3年ぶりに赤字決算となった。病院別では、八鹿病院で純損失676,333千円（前年度純利益43,888千円）、村岡病院で純損失54,279千円（前年度純損失12,430千円）を計上し、両病院ともに収支が悪化した。

医業収益は6,391,441千円（前年度6,648,263千円）で対前年256,822千円（3.9%）の減収となった。このうち、入院収益は242,807千円（5.5%）の減収、外来収益は8,020千円（0.5%）の増収となっている。医業費用は7,908,807千円（前年度7,805,970千円）で対前年102,837千円（5.5%）増加した。中でも材料費は116,519千円の増となっている。医業収支比率は80.8%（前年度85.2%）と4.4ポイント悪化した。

医業外収益は1,067,792千円（前年度1,480,070千円）で対前年412,277千円（27.9%）の減収となったが、このうち補助金の減収が380,466千円を占めている。経常収支比率は91.1%（前年度100.4%）で9.3ポイント悪化した。

① 入院・外来収益の状況

八鹿病院では、入院患者一人一日当たりの収益が43,195円（対前年655円減）となった。これは、高齢患者の増加や看護職員の不足に対応するために病床の機能転換を実施したことが影響している。入院患者数も減少したため、入院収益は3,987,546千円（前年度4,219,493千円）と、対前年231,947千円（5.5%）の減収となった。外来

患者一人一日当たりの収益は 13,006 円（対前年 390 円増）となった。これは、高額な医薬品を必要とする治療等が増加したことが収入に影響したものである。外来患者数が減少したものの、外来収益は 1,510,107 千円（前年度 1,513,589 千円）と、対前年 3,482 千円（0.2%）の増収となった。

村岡病院では、入院患者一人一日当たりの収益が 31,885 円（対前年 519 円減）となった。入院患者数も減少したことから、入院収益は 217,038 千円（前年度 227,899 千円）と、対前年 10,861 千円（4.8%）の減収となった。外来患者一人一日当たりの収益は 17,767 円（対前年 317 円減）となったが、外来患者数が増加したため、外来収益は 189,843 千円（前年度 178,340 千円）と、対前年 11,503 千円（6.5%）の増収となった。

② 職員数及び給与費の状況

令和 5 年度末の八鹿病院及び村岡病院の職員数は、合計 605 人で、前年度に比べ 11 人の減員となっている。なお、医師数は前年と同数であった。

一方で、給与費は 4,722,750 千円（前年度 4,710,432 千円）と対前年 12,318 千円（0.3%）の増加となっている。これは人事院勧告に伴う給与改定や、看護職員の処遇改善を目的とした賃金改善の実施により、職員一人あたりの給与費が増加したためである。医業収益に対する給与費の割合は 73.9%（前年度 70.9%）と対前年 3.0 ポイント上昇している。

③ 材料費・経費の状況

医業収益が減少した一方で、材料費は 1,179,639 千円（前年度 1,063,120 千円）と前年度に比べ 116,519 千円増加した。八鹿病院における抗がん剤治療や眼科の硝子体注射などにかかる高額医薬品の増加、村岡病院における先発医薬品の使用増加等が主な要因である。医業収益に対する材料費の割合は 18.5%（前年度 16.0%）と対前年 2.5 ポイント上昇している。

経費については 1,049,532 千円（前年度 1,078,591 千円）と前年度に比べ 29,059 千円減少した。経費の内訳としては、委託料 563,603 千円（八鹿病院 515,434 千円、村岡病院 48,169 千円）、光熱水費 124,996 千円（八鹿病院 114,968 千円、村岡病院 10,028 千円）、修繕費 66,342 千円（八鹿病院 60,743 千円、村岡病院 5,599 千円）、燃料費 59,937 千円（八鹿病院 59,600 千円、村岡病院 337 千円）、消耗品費 46,381 千円（八鹿病院 42,718 千円、村岡病院 3,663 千円）などが主なものである。このうち光熱水費が対前年 26,096 千円（17.3%）減少したことが経費の減少につながっている。一方で、医業収益に対する経費の割合は 16.4%（前年度 16.2%）と対前年 0.2 ポイント上昇している。

(2) むらおか訪問看護ステーション

一日平均利用者数は、19.0 人（前年度 19.3 人）と対前年 0.3 人の減となった。事業収益は 46,661 千円（前年度 46,934 千円）と対前年 273 千円（0.6%）の減収となっている。一方で、職員が 1 名減となったことなどにより事業費用も減少しており、純利益は 6,140 千円（前年度 4,243 千円）と対前年 1,897 千円の増益となった。

(3) 看護専門学校

令和 5 年度卒業生 23 人のうち、当組合へ 12 人が就職しており、看護師確保に寄与している。また但馬地域の医療機関の看護師確保にも貢献している。

収益では、事業収益が 24,680 千円（前年度 27,360 千円）で総収益に対する構成割合は 21.2%（前年度 23.1%）、事業外収益が 91,714 千円（前年度 91,241 千円）で構成割合は 78.7%（前年度 76.9%）となっている。事業外収益のうち、補助金と負担金交付金を合わせた額は 57,188 千円（前年度 58,205 千円）で構成割合 49.0%（前年度 49.1%）となっており、看護学校という事業の特殊性から外部資金への依存度が高い。

事業費用は 152,940 千円（前年度 154,032 千円）であり、主な内訳は給与費 105,093 千円（前年度 107,373 千円）、経費 23,160 千円（前年度 22,977 千円）、減価償却費 23,179 千円（前年度 22,178 千円）となっている。

総収益 116,593 千円（前年度 118,601 千円）、総費用 156,645 千円（前年度 157,907 千円）で純損失は 40,052 千円（前年度 39,306 千円）となり、前年度に比べ 746 千円悪化している。

(4) 福祉センターの状況

① 老人保健施設

年間利用者数は施設サービス、短期入所療養介護、重症心身障害児（者）短期入所を合わせた入所者数 31,464 人（前年度 33,934 人）で対前年 2,470 人減少し、通所者数 11,045 人（前年度 11,380 人）で対前年 335 人減少している。これは、特別養護老人施設等の入所待ちでの利用者が減少したことによるものである。

事業収益は 586,742 千円（前年度 620,797 千円）と対前年 34,055 千円の減収となった。その内訳は、入所収益 431,477 千円（前年度 465,838 千円）、通所収益 127,016 千円（前年度 127,012 千円）が主なものであり、利用者数の減少を受け、入所収益が減少している。事業外収益については、長期前受金戻入 22,316 千円（前年度 26,062 千円）などが主なものとなっている。

事業費用は 637,520 千円（前年度 628,270 千円）であり、主な内訳は給与費 472,920

千円（前年度 463,100 千円）材料費 8,196 千円（前年度 7,442 千円）、経費 128,227 千円（前年度 131,102 千円）、減価償却費 27,292 千円（前年度 25,833 千円）となっている。給与費の増加が事業費用の増加の要因となっているが、人事院勧告に伴う給与改定や、介護職員の処遇改善を目的とした賃金改善の実施による所が大きい。

総収益 610,537 千円（前年度 652,599 千円）、総費用 650,678 千円（前年度 642,278 千円）で純損失は 40,140 千円となった。10,322 千円の純利益を計上した昨年度との比較では、50,462 千円の悪化となった。

② 南但訪問看護センター

一日平均利用者数は、119.0 人（前年度 139.6 人）と対前年 20.6 人（14.8%）の減となった。南但訪問看護センターでは、職員数の減少だけでなく、常勤職員の非常勤化なども複数あったため、訪問件数が大幅に減っている。

事業収益では、訪問件数の減少により、療養料収益が 310,087 千円（前年度 362,560 千円）と対前年 52,473 千円（14.5%）の減収となった。事業費用では、職員数の減少により、給与費が 260,959 千円（前年度 272,218 千円）と対前年 11,259 千円（4.1%）の減となった。

総収益 314,037 千円（前年度 366,023 千円）、総費用 281,718 千円（前年度 295,136 千円）で純利益は 32,319 千円（前年度 70,887 千円）となり、前年度に比べ 38,568 千円の減益となった。

③ 居宅介護支援事業所

年間プラン作成件数は 1,434 件（前年度 1,361 件）となっている。

事業収益では受託収益が 18,923 千円（前年度 18,346 千円）で総収益のほぼ全額を占め、事業費用では給与費が 25,961 千円（前年度 23,508 千円）で総費用の 9 割以上を占めている。

事業収支状況は、総収益 19,212 千円（前年度 18,605 千円）、総費用 27,878 千円（前年度 25,311 千円）で、8,666 千円（前年度 6,707 千円）の純損失となり、対前年 1,959 千円悪化した。

（５）資本的収支の状況

令和 5 年度の主な施設整備事業として、八鹿病院の防災盤及び非常放送設備更新工事（84,810 千円）、空調設備改修工事（44,687 千円）、非常用発電設備潤滑油系統整備事業（31,900 千円）などがあげられる。このほかにも、看護専門学校第 2 寮空調設備改修工事（4,098 千円）、老人保健施設の高圧ケーブル等更新工事（4,928 千円）などを実施した。

主な医療機器等整備事業としては、八鹿病院の中央材料室洗浄等機器（45,100 千円）、手術室映像システム（11,550 千円）、腹腔鏡システム（24,794 千円）などを更新したほか、村岡病院の全自動錠剤分包機（6,325 千円）や、老人保健施設の温冷配膳車（2 台 7,634 千円）等を更新した。

資本的支出の総額は 1,815,350 千円（前年度 1,167,887 千円）で、その内訳は、建設改良費 448,661 千円（前年度 356,335 千円）、企業債償還金 740,999 千円（前年度 781,293 千円）、投資 625,691 千円（前年度 30,260 千円）となっている。

この財源となる資本的収入は 981,355 千円（前年度 1,538,805 千円）で、その内訳は、企業債 406,600 千円（前年度 319,000 千円）、他会計繰入金 546,420 千円（前年度 587,923 千円）、投資回収金 25,970 千円（前年度 624,193 千円）などであり、資本的支出が資本的収入を 833,995 千円上回った。

なお、資本的収入において、投資回収金が前年度に比べ 598,223 千円と大きく減少した理由は、令和 4 年度には満期の有価証券 600,000 千円を現金化していたためである。また資本的支出において投資が前年度に比べ 595,431 千円と大きく増加した理由は、令和 4 年度に現金化した 600,000 千円の有価証券を令和 5 年度に再投資したためである。

3 審査意見

令和 5 年度の収支については、組合全体で収入 8,567,197 千円（前年度 9,337,145 千円）、費用 9,348,207 千円（前年度 9,266,248 千円）で差し引き 781,010 千円（前年度 70,897 千円の純利益）の純損失を計上した。

令和 2 年度から続いた新型コロナウイルス感染症にかかる、特別な医療体制への補助金等による資金的な支援が終了し、令和 5 年度は補助金 73,536 千円（前年度 454,003 千円）となった。また、発熱外来等の利用者減少も相まって、医業収益 6,391,441 千円（前年度 6,648,263 千円）、医業費用 7,908,807 千円（前年度 7,805,970 千円）となったことが収支悪化の主な要因である。

八鹿病院は、構成市町民のための地域中核病院として地域住民の期待が大変大きい。今後も医療の安定供給のために、本体である病院の健全経営の維持が求められる。過去 3 期は新型コロナウイルス感染症に起因する特殊要因によって問題点が覆われており、本業の医業収支は依然として厳しい経営状態が続いていることが、浮き彫りになったと認識している。今後も、構成市町はもちろん、周辺地域からの当病院の受診患者増加にも

注力し、経費削減にも留意して、さらなる改善に努められたい。

村岡病院は、レスパイト入院の受入れ強化により期の途中から増加に転じたものの、通期では入院患者数 6,807 人(前年度 7,033 人)と減少し、入院収益が減収となった。

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 月から五類となり、補助金の支給も終了するなど、収支はコロナ以前の形に戻ってきているように窺える。水槽に例えると、コロナ補助金という水が抜けたことで本来の姿が現われ、問題点や課題が見えてきた年度であったとも言える。収益悪化の要因を概観すると、コロナ補助金の終了による医業外収支要因が約半分を占め、残りが医業収支要因である。医業収支の悪化は、物価高騰と賃上げに起因する費用の増加によるものである。医業は、国が定める診療報酬によって事業を行う必要がある、いわゆる「価格決定権のない事業」であり、物価高騰や賃上げを価格転嫁できないという現在の社会・経済情勢下では極めて不利なビジネスモデルである。しかしながら、患者数が目に見えて減少するなどしている部分について原因を分析し対策を講じている等、可能な範疇での増収に努めていることは大いに評価されるべきことである。

決算数字について、会計規則等の定められた数字を算出するだけでは、経営の変化や講じた施策の結果を見ることはできない。結果は結果として数字の分析を精緻に行い、数字で表される「定量情報」と数字では表されない「定性情報」との連動性に着目し、正しい効果測定の実施とともに経営状態の変化を敏感に感じ取れるよう、病院経営強化プランを交えた体制整備を行うことを通じ、今後も地域に根ざした医療に継続して取り組み、地域に貢献することを望む。

もう一点、令和 6 年度には PET-CT という新しい医療機器が但馬医療圏で初めて導入される。これは養父市と香美町の支援もあって実現するものではあるが、公立八鹿病院組合としてすべてにおいて平均点を狙うのではなく、尖った得意分野を築き伸ばす戦略に舵を切ることで生き残りをかけるという英断であると認識している。大きな武器となり得るこの医療機器を各部門・診療科、そして職員一人ひとりが、直接効果・間接効果を含め、どのようにして活かしきるのかを考え、多くの付加価値をもたらすことを希望する。

むすびに、新型コロナウイルス感染症を機として大きく環境が変化する厳しい中において、日々医療サービスの提供に従事されている役職員のみなさまに敬意を表するとともに、今後も八鹿病院の基本理念である「医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサ

ービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くす」及び行動指針にある「患者中心の医療」、「思いやりのある医療サービスの提供」を八鹿病院のみならず、組合全体においても大切にされ、持続性のある事業運営に努めていただきたい。